



<岡 明 座長 紹介>

略歴

- 1984年 東京大学医学部附属病院小児科入局
 - 1990年 米国Harvard大学Boston小児病院神経科研究員
 - 1998年 鳥取大学医学部脳神経小児科助教授
 - 2004年 国立成育医療センター神経内科医長
 - 2007年 東京大学医学部小児科准教授
 - 2009年 杏林大学医学部小児科教授
 - 2013年 東京大学大学院医学系研究科小児科教授
 - 2020年 埼玉県立小児医療センター病院長
- 現在に至る。

役職(学会等)

- 日本小児科学会 理事
- 日本小児神経学会 監事
- 日本保育保健協議会 副会長

専門分野

小児科学、小児神経学

イントロダクション

子どもたちの可能性を伸ばすために

埼玉県立小児医療センター 病院長

岡 明

2025年1月31日

第45回母子健康協会シンポジウム「こどもの発達を促す接し方と保護者への支援」

こども基本法に基づき「こども大綱」が制定されました。

令和5年4月1日 こども基本法の施行

令和5年12月22日 こども大綱の制定

こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」～全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会～

全てのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約*の精神にのっとり、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会。



身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態
ウェルビーイング(Well-being)？

世界保健機関（WHO）憲章の「健康」の定義

健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、**肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態**にあることをいいます。

（日本WHO協会HPより）

こども
身体的 ➡ 発育、感染症、アレルギー等
精神的 ➡ 発達、心の問題
社会的 ➡ 家庭、保育教育

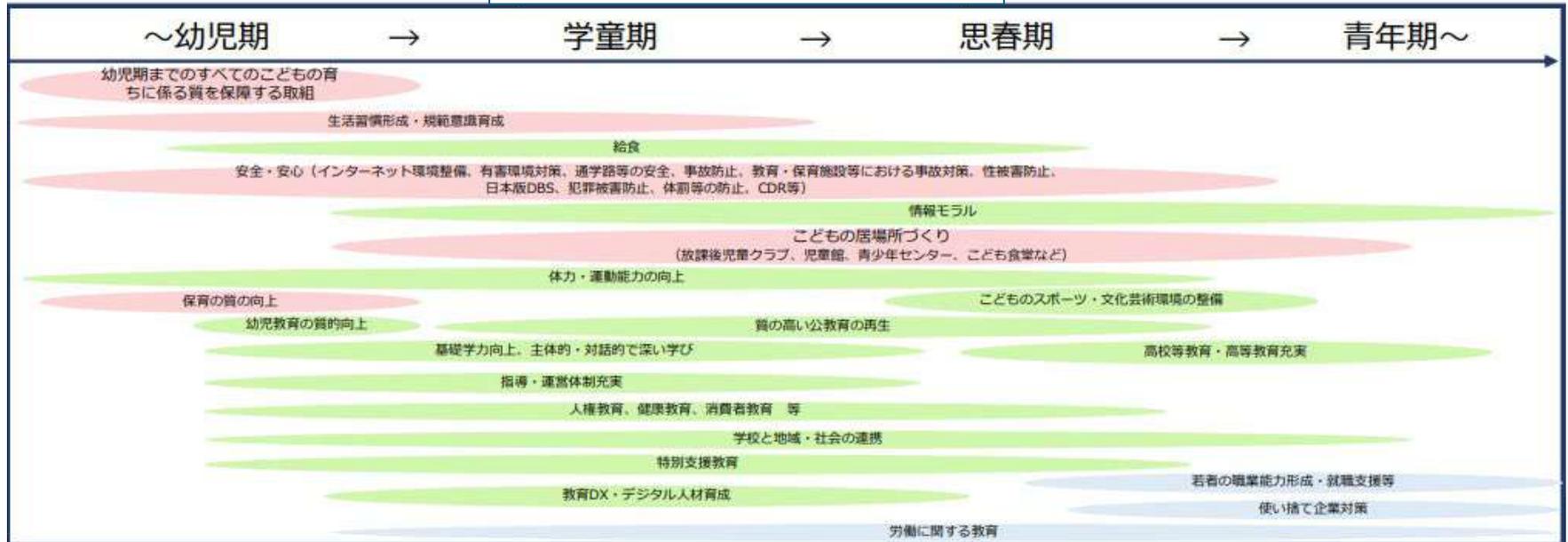
こども大綱

2 ライフステージ別の重要事項（1）こどもの誕生前から幼児期まで **こどもの誕生前から幼児期までのこどもの成長の保障と遊びの充実**

こどもの心身の状況や、保護者・養育者の就労・養育状況を含むこどもの置かれた環境等に十分に配慮しつつ、こどもの誕生前から幼児期までの育ちをひとしく、切れ目なく保障する。待機児童対策に取り組むとともに、親の就業の状況にかかわらず、特に3歳未満児の子育て当事者が地域の中で孤立しないよう、認定こども園、保育所、幼稚園、地域子育て支援拠点など地域の身近な場を通じた支援を充実する。幼稚園、保育所、認定こども園のいずれにも通っていないこどもの状況を把握し、必要な教育・保育、子育て支援サービス等の環境整備を進め、利用につなげていく。あわせて、病児保育の充実を図る。

幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることから、幼稚園、保育所、認定こども園の施設類型を問わず、安全・安心な環境の中で、幼児教育・保育の質の向上を図ることを通じて、障害のあるこどもや医療的ケア児、外国籍のこどもをはじめ様々な文化を背景にもつこどもなど特別な配慮を必要とするこどもを含め、一人一人のこどもの健やかな成長を支えていく。

こども大綱 保育の質の向上



こども家庭庁 資料https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/9a6d7e7c-9f20-4fe4-813a-43fc3a110069/6678101a/20230401_councils_shingikai_kihon_seisaku_9a6d7e7c_03.pdf

1-2歳児の過半数が保育所を利用
保育所等利用率の上昇



こども家庭庁「保育所等関連状況取りまとめ (令和6年4月1日)」

本シンポジウムでのこどもの心の課題への取り組み 皆様からの声に応えて

第42回（2022年）「乳幼児の心と体の健康」

● 秋山 千枝子先生（あきやま子どもクリニック院長）

気になる子どもとその対応・・・発達に課題がある子どもや家庭に問題がある子どもへの対応

第43回（2023年）「乳幼児の心理発達に必要なアタッチメント（愛着形成）」

● 遠藤 利彦先生（東京大学大学院教育学研究科教授）

乳幼児の心の発達とアタッチメント...「安心感の輪」と「一人でいられる力」の大切さ

● 田中 恭子先生（国立成育医療研究センター こころの診療部 児童・思春期リエゾン診療科診療部長）

子どもと愛着、その支援を考える

第44回（2024年）「発達や行動が気になる子供への園での対応」

● 広瀬 宏之先生（横須賀市療育相談センター 所長）

発達障害支援のコツ

● 佐々木 美恵先生（埼玉学園大学人間学部心理学科教授）

発達や行動が気になる子どもと保護者への支援

今回のシンポジウムの趣旨

「こどもの発達を促す接し方と保護者への支援」

前回のシンポジウム

子どもたちの中で、いわゆる「気になる子」

もしかしたら発達障害かも

どうやって保育所の中で支援をしていくか

どうやって地域の支援につなげていくのか

➡ 大変に困っている子どもたちへの支援

今回のシンポジウム

もう少し広い視野で子どもたちの行動や課題について

よく相談を受ける内容 どの様に対応したらよいのか

ペアレントトレーニングの考え方を保育の場でどの様に活用するか

特に保護者への支援につなげていくのか

こどものプロフェッショナルとしての保育への期待

日本社会の変化
保育を国として重要視



全家庭の子育て家庭支援
の拠点



保育への期待 広がる社会の中での役割

こどもの貧困
虐待ネグレクトの増加



地域と連携し地域の子育て
支援拠点として



良質な保育の提供が日本社会の未来に重要